

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	レクリエーション支援Ⅱ		担当教員  (実務経験)	長江 孝  レクリエーションインストラクターとして こども共有サポートセンターに勤務	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	世界的な健康増進の動向の中で、「心を元気にする」ためのレクリエーション支援に注目が集められています。本演習では、レクリエーション支援の基礎を学びます。				
到達目標	レクリエーション支援者として、良好なコミュニケーションづくりの理論に裏付けられた信頼関係を気づく方法(ホスピタリティ)や動機づけの理論に裏付けられた「自主的、主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開方法」(アイスブレイキング)を実施できるようになる。				
テキスト・ 参考図書等	『レクリエーションガイドブック40 基本のアイス・ブレイキング・ゲーム』公益財団法人日本レクリエーション協会 『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～』公益財団法人日本レクリエーション協会				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	小テスト・提出物・演習時の実技・授業への積極的な参加姿勢(発言や意見交換)を総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	30%			
	提出物	30%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	テキスト・プリントを元に授業を展開します。体を動かすレクリエーション活動を中心に行いますので、動きやすい服装で参加してください。楽しく・積極的な参加を期待します。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	レクリエーション活動の習得	モデル・プログラムの習得		
	2	レクリエーション活動の習得	モデル・プログラムの習得		
	3	レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得		
	4	レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得		
	5	レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得		
	6	レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得		
	7	レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得		
	8	レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得		
	9	レクリエーション支援実習	リスクマネジメントの方法		
	10	レクリエーション支援実習	プログラムの立案		
	11	レクリエーション支援実習	プログラムの立案		
	12	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施		
	13	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施		
	14	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施		
15	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施			



2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護過程の実践Ⅱ		担当教員  (実務経験)	山谷 博美  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として老人保健施設に勤務	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	介護福祉士として専門的な見地から介護を提供できるように、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開をできる能力を養う。				
到達目標	本人の望む生活の実現にむけて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程、チームとしての介護過程展開能力を習得する。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	その他は、提出課題の内容や提出期限、授業への取り組み姿勢、発表への積極的姿勢など総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
	その他	30%			
履修上の 留意事項	講義や演習では学生参加型授業が主となります。理解できない場合は質問するなど、積極的な参加を求めます。介護サービス提供に向けて大切な授業です。授業中に課した課題を次回の授業教材として使用する場合がありますので、課題の提出期限は必ず守ってください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	介護過程実践Ⅰの振り返り	介護過程実践Ⅰの振り返り		
	2	事例検討	事例検討Ⅰ①		
	3	事例検討	事例検討Ⅰ②		
	4	事例検討	事例検討Ⅰ③		
	5	事例検討	事例検討Ⅰ④		
	6	介護の実施①	介護の実施 実施の記録①		
	7	介護の実施②	介護の実施 実施の記録②		
	8	介護の実施③	情報の共有と個人情報の保護 ケーススタディの記入方法(実施状況)		
	9	評価	評価の意義と目的 評価の内容と方法、ケーススタディの記入方法(評価)		
	10	事例検討	事例検討Ⅱ①		
	11	事例検討	事例検討Ⅱ②		
	12	事例検討	事例検討Ⅱ③		
	13	事例検討	事例検討Ⅱ④		
	14	定期試験対策①	定期試験対策①		
15	国家試験対策①	国家試験対策①			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護研究	担当教員  (実務経験)	高橋 綾  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士としてケアハウスに勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	23回	時間数	45時間
授業目的	介護福祉士として専門的な見地から介護を提供できるように、各領域で学んだ知識と技術を統合し、調べ学習をするなかで表現方法、分析力及び思考能力を身につけることを目的とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べ学習を通し、自分の興味のあることに対しての情報収集力を習得する。</li> <li>他者にわかりやすく伝える力(書く・話す)を習得する。</li> <li>文献や報告書などを読み、自分の考えまとめる力を習得する。</li> </ul>				
テキスト・参考図書等	指定教材はないが、各自のテーマに沿った教材を用意する。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	課題の内容、提出状況、主体的な取り組み、自身のテーマに関する(発表内容・わかりやすいパワーポイント・質疑応答など)により総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	60%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	福祉に対する理解、どのような援助者になりたいか、自身のテーマと考えを深めるために、文献検索や収集においても主体的に行ってください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	介護研究Ⅰ(発表資料の作成①)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成①		
	2	介護研究Ⅰ(発表資料の作成②)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成②		
	3	介護研究Ⅰ(発表資料の作成③)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成③		
	4	介護研究Ⅰ(発表資料の作成④)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成④		
	5	介護研究Ⅰ(発表資料の作成⑤)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成⑤		
	6	介護研究Ⅰ(発表資料の作成⑥)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成⑥		
	7	介護研究Ⅰ(発表資料の作成⑦)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成⑦		
	8	介護研究Ⅰ(発表資料の作成⑧)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての原稿作成⑧		
	9	介護研究Ⅱ(抄録の作成①)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての抄録作成①		
	10	介護研究Ⅱ(抄録の作成②)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての抄録作成②		
	11	介護研究Ⅱ(抄録の作成③)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての抄録作成③		
	12	介護研究Ⅱ(抄録の作成④)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての抄録作成④		
	13	介護研究Ⅱ(抄録の作成⑤)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての抄録作成⑤		
	14	介護研究Ⅱ(抄録の作成⑥)(高橋・泉・山谷)	研究に発表にむけての抄録作成⑥		
15	介護研究Ⅲ(発表資料の作成①)(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けてのパワーポイント作成①			

履修主題・履修内容	16	介護研究Ⅲ(発表資料の作成②)(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けてのパワーポイント作成②
	17	介護研究Ⅲ(発表資料の作成③)(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けてのパワーポイント作成③
	18	介護研究Ⅲ(発表資料の作成④)(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けてのパワーポイント作成④
	19	介護研究Ⅲ(発表資料の作成⑤)(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けてのパワーポイント作成⑤
	20	介護研究Ⅲ(発表資料の作成⑥)(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けてのパワーポイント作成⑥
	21	介護研究発表準備①(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けての確認①
	22	介護研究発表準備②(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けての確認②
	23	介護研究発表準備③(高橋・泉・山谷)	研究発表に向けての確認③



授業科目 (科目ID)	介護総合演習Ⅱ		担当教員	山谷 博美	
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	介護福祉実習Ⅰの振り返り、他者とのディスカッションを通して自己を客観的に振り返り介護福祉実習Ⅱに向けた課題を明確化する。介護福祉実習Ⅱに向けた施設理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識・技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。				
到達目標	自己の課題が明確化され、介護福祉実習Ⅱにおける課題克服にむけての取り組みが具体的に述べる事ができる。施設理解が深まり、実習生に求められる姿勢、視点、記録の意味を理解し、実習に向けた心の準備が整う。				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『令和4年度介護実習要項』 学校法人吉田学園 専門学校北海道福祉・保育大学校				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	課題の内容、提出状況、実習の進め方や記録方法の理解度にて総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	70%			
履修上の留意事項	提出物は施設に提出するものもあり、期限厳守をお願いします。理解できないままにしておくこと介護福祉実習に影響します。不安なく実習に向かえるよう積極的に取り組んでください。原則欠席をしないことですが、欠席した場合は翌登校時に必ず教員のところへ確認に来るようにしてください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション(山谷)	介護福祉実習Ⅱの目的・実習内容		
	2	介護福祉実習Ⅰの振り返り(山谷・泉・高橋)	一年次実習の振り返りを通して、自己課題を明確化する		
	3	実習生の役割(泉)	取り組み姿勢・心得を再確認し、すべき準備を明確化する		
	4	記録物について①(泉)	個人票を作成する		
	5	記録物について②(山谷)	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成する		
	6	記録物について③(山谷)	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成する		
	7	記録物について④(山谷)	実習日誌を記入する意義・目的、ケーススタディの記入方法の確認		
	8	記録物について⑤(高橋)	誓約書・同意書の作成、お礼状の書き方、記録物の提出期限、留意点の再確認		
	9	実習に向けての事前準備①(高橋)	コミュニケーションの基礎的知識・技術の習得		
	10	実習に向けての事前準備②(高橋)	介護実践に必要な知識・技術の習得		
	11	実習に向けての事前準備③(高橋)	カンファレンスの意義・目的・技術の習得		
	12	実習施設の理解①(高橋・泉)	実習施設とその地域の理解、社会資源との関わりを理解する①		
	13	実習施設の理解②(高橋・泉)	実習施設とその地域の理解、社会資源との関わりを理解する①		
	14	介護福祉実習Ⅱオリエンテーション	実習の目的・意義・心構え・提出期限の再確認		
15	〃	施設別面談			



2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護総合演習Ⅲ		担当教員  (実務経験)	山谷 博美  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	①介護福祉実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う。 ②質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる介護研究の意義とその方法について理解する。				
到達目標	①実習のまとめ、報告会などを通じ学びを共有・深化させ自己の課題と展望を考えることができる。 ②介護研究の意義・目的を理解する。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『令和4年度介護実習要項』 学校法人吉田学園 専門学校北海道福祉・保育大学校				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	課題の内容、提出状況、実習の進め方や記録方法の理解度にて総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	70%			
履修上の 留意事項	今までの実習の総括となります。提出物は施設に提出するものもあり、期限厳守をお願いします。原則欠席をしないことですが、欠席した場合は翌登校時に必ず教員のところへ確認に来るようにしてください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	介護福祉実習Ⅱのまとめ①(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅱの振り返り・ケースのまとめ①		
	2	介護福祉実習Ⅱのまとめ②(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅱの振り返り・ケースのまとめ②		
	3	介護福祉実習Ⅱのまとめ③(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅱの振り返り・ケースのまとめ③		
	4	介護福祉実習報告会①(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅱ報告会①		
	5	介護福祉実習報告会②(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅱ報告会②		
	6	介護研究オリエンテーション①(高橋)	介護研究の意義と目的		
	7	介護研究オリエンテーション②(高橋)	研究の基礎、方法等		
	8	介護研究のテーマの作成①(高橋)	自分が研究したいと考えているテーマ、その理由について①		
	9	介護研究のテーマの作成②(高橋)	自分が研究したいと考えているテーマ、その理由について②		
	10	介護研究計画書作成①(高橋)	介護研究計画書作成①		
	11	介護研究計画書作成②(高橋)	介護研究計画書作成②		
	12	介護研究Ⅰ(文献収集・文献読込②)(高橋)	研究テーマに合わせて文献の検索・収集する、文献読込①		
	13	介護研究Ⅰ(文献収集・文献読込③)(高橋)	研究テーマに合わせて文献の検索・収集する、文献読込②		
	14	介護研究Ⅰ(文献収集・文献読込④)(高橋)	研究テーマに合わせて文献の検索・収集する、文献読込③		
15	介護研究中間まとめ(泉・高橋・山谷)	介護研究発表に向けた今後の確認			







2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	こころとからだのしくみ I	担当教員  (実務経験)	三原 彩絵子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 臨床心理士・公認心理師として教育委員会に勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	人の心の仕組みについて学ぶことにより、身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援、多職種協働ができるような素養を高めることに寄与する。				
到達目標	心の仕組みについて基本的で幅広い内容を日常場面に関連付けて理解できるようになる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	・期末試験、提出課題、授業に取り組む様子から総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	スライド教材や体験的な学びを通して、新たな発見ができることを期待します。 実践に生かせるような知識とするために、気になること、分からないことがあれば遠慮なく伝えてください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	自己紹介、心理学とは何か		
	2	「健康」とは何か	健康の定義、「健康」づくり		
	3	「健康」とは何か	健康観、人はなぜ病気になるのか		
	4	こころのしくみの基礎	「こころ」とは何か		
	5	こころのしくみの基礎	脳のしくみ		
	6	こころのしくみの基礎	認知のしくみ、認知症		
	7	こころのしくみの基礎	学習、記憶		
	8	こころのしくみの基礎	思考とは何か		
	9	こころのしくみの基礎	感情と情動、他者との関わり		
	10	こころのしくみの基礎	人格について		
	11	人間の欲求とは	人間の欲求と自己実現		
	12	人間の欲求とは	意欲と動機づけ		
	13	自己実現と尊厳	心の発達と自己概念		
	14	自己実現と尊厳	よりよく生きる、ウェルビーイング		
15	まとめ	全体の振り返りと介護福祉職に求められる役割			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	認知症の理解Ⅱ		担当教員  (実務経験)	高橋 綾  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士としてケアハウスに勤務	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	認知症の人が「その人らしく暮らす」ために、関わる際の留意点と地域で支える具体的な視点について学習します。				
到達目標	認知症の理解と、認知症の人の理解ができ、その人らしさを大切にしたい関わりが出来る。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期テスト、小テスト、提出物、グループワークや発表への積極的姿勢などを総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	10%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	当該科目では、認知症に関する基礎的知識を活かして、関わりや地域で支える視点および実践的な内容の授業を展開します。各授業において小テストを実施し基礎的知識の確認をします。2・3・4の授業は、現場の介護福祉士の講義となります。認知症の人の理解を深め、関わることをできるように学ぶ意欲をもって授業に臨んでください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、1年の振り返り(高橋)	本授業の進め方、1年次の振り返りテスト、パーソン・センタード・ケアについて		
	2	認知症ケアの実際①(越後)	現場で行われているケアの実際(音楽療法)		
	3	認知症ケアの実際②(越後)	現場で行われているケアの実際(音楽療法)		
	4	地域におけるサポート体制(木元)	地域のサポート体制について		
	5	認知症の人の理解(高橋)	VR体験①		
	6	認知症の人の理解(高橋)	VR体験②		
	7	認知症の人のアセスメント(高橋)	センター方式・ひもときシートの理解		
	8	認知症ケアの実際①(高橋)	認知症の人へのケア(コミュニケーション・食事・排泄)		
	9	認知症ケアの実際②(高橋)	認知症の人へのケア(入浴・睡眠・BPSDへの対応)		
	10	認知症の人へのさまざまなアプローチ①(高橋)	ユマニチュード・バリデーショソ・回想法等		
	11	認知症の人へのさまざまなアプローチ②(高橋)	タクティールケア・学習療法等		
	12	認知症の人へのさまざまなアプローチ③(高橋)	コグニサイズ、ふまねっと、シナプソロジー等		
	13	介護者支援(高橋)	家族への支援、介護福祉職への支援		
	14	認知症の人の地域生活支援(高橋)	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア・地域生活支援		
15	まとめ(高橋)	認知症の理解のまとめ、定期試験対策			



2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	医療的ケア I		担当教員  (実務経験)	髙田 美穂子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務		
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	34回	時間数	68時間
授業目的	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるように必要な知識・技術を習得する。					
到達目標	医療的ケアを安全・適切に実施するための必要な知識が述べられ、必要な物品を準備し手順が説明できる。					
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	70%	この科目は、34コマすべての授業を受講しなければ評価を受けられません。受講後試験を実施します。試験、小テスト、各実施手順の参加態度など総合的に勘案し評価します。			
	レポート	0%				
	小テスト	10%				
	提出物	0%				
その他	20%					
履修上の留意事項	講義を中心に板書、DVD等の視覚教材、演習を行います。・人工呼吸器、喀痰吸引、経管栄養等はシュミレーターを使用し学びます。・単元ごとの確認テストを実施し、復習に役立てます。※この授業は34コマ必ず出席しなければ単位修得はできません。また、授業終了後に実施する試験に合格しなければ、医療的ケアⅡへは進めませんので、毎回の授業の中で知識を習得するように努力してください。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	第1章第1節 医療的ケアとは	オリエンテーション 医療的ケアとは、医療的ケア実施の基礎			
	2	第1節 医行為について	医行為とは、医療的ケアにおける個人の尊厳・医療の倫理			
	3	第1節 喀痰吸引等制度(社会福祉士及び介護福祉士法の改正)	医療制度とその変遷、社会福祉士及び介護福祉士法の改正、改正法による喀痰吸引等制度の概要			
	4	第2節 安全な療養生活	喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 【リスクマネジメント、ヒヤリハット・アクシデント】			
	5	第2節 安全な療養生活	救急蘇生 救急蘇生法の実際(DVD鑑賞後実施)			
	6	第3節 清潔保持と感染予防	感染予防、介護福祉職の感染予防、療養環境の清潔、消毒法、消毒と滅菌			
	7	第4節 健康状態の把握	身体・精神の健康 健康状態を知る項目(バイタルサインなど)			
	8	第4節 健康状態の把握	急変状態について 《確認テスト》			
	9	第2章 第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	呼吸のしくみとはたらき いつもと違う呼吸状態、呼吸の音を聞いてみよう!			
	10	第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	喀痰吸引とは			
	11	第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	人工呼吸器と吸引1			
	12	第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	人工呼吸器と吸引2			
	13	第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	子どもの吸引について 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意			
	14	第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	喀痰吸引に関連した感染・危険性・安全確認			
15	第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	急変・事故発生時の対応と事前対策 《確認テスト》				

履修主題・履修内容	16	第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引で用いる器具・器材のしくみ、清潔保持、吸引の技術と留意点
	17	第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引にともなうケア、報告および記録
	18	第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引(口腔内・鼻腔内)実施手順1
	19	第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引(口腔内・鼻腔内)実施手順2
	20	第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引(気管カニューレ内)実施手順3
	21	第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内)手順確認1
	22	第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内)手順確認2
	23	第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引まとめ 《確認テスト》
	24	第3章第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論	消化器系のしくみとはたらき
	25	第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論	消化・吸収とよくある消化器の症状、経管栄養とは
	26	第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論	注入する栄養剤に関する知識、経管栄養実施上の留意点
	27	第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論	子どもの経管栄養、経管栄養に関係する感染と予防、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
	28	第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策 《確認テスト》
	29	第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持
	30	第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養の技術と留意点、経管栄養に必要なケア、報告および記録
	31	第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養(経鼻経管)実施手順1
	32	第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養(経鼻経管・胃ろう)実施手順2
	33	第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養(胃ろう・半固形化栄養剤)実施手順3
34	第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養まとめ、今までの振り返り 《確認テスト》	

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	医療的ケアⅡ		担当教員  (実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	安全な喀痰吸引、経管栄養実施のため、確実な手技を習得する。				
到達目標	口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内吸引、経鼻経管栄養、胃ろう又は腸ろうによる経管栄養の評価項目について手順通りに実施できる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座15医療的ケア 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	喀痰吸引(鼻腔内、口腔内、気管カニューレ内)、経管栄養(経鼻、胃ろう又は腸ろう)のすべての行為において5回以上演習を実施する。実施5回目以降にすべての項目についての評価結果が「基本研修(演習)評価基準」で示す手順どおりに実施できているとなった場合、演習の修了を認める。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	100%				
履修上の 留意事項	身だしなみを整え取り組んでください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	評価を受けるにあたっての心構え・オリエンテーション 物品チェックなど		
	2	喀痰吸引法 ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	鼻腔内吸引手順・評価試験		
	3	喀痰吸引法 ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	鼻腔内吸引手順・評価試験		
	4	喀痰吸引法 ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	鼻腔内吸引手順・評価試験		
	5	喀痰吸引法 ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	口腔内吸引手順・評価試験		
	6	喀痰吸引法 ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	口腔内吸引手順・評価試験		
	7	喀痰吸引法 ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	口腔内吸引手順・評価試験		
	8	喀痰吸引法 ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	気管カニューレ内吸引手順・評価試験		
	9	喀痰吸引法 ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	気管カニューレ内吸引手順・評価試験		
	10	喀痰吸引法 ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	気管カニューレ内吸引手順・評価試験		
	11	経管栄養法 ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	経鼻経管栄養手順・評価試験		
	12	経管栄養法 ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	経鼻経管栄養手順・評価試験		
	13	経管栄養法 ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	経鼻経管栄養手順・評価試験		
	14	経管栄養法 ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	胃ろう経管栄養手順・評価試験		
15	経管栄養法 ( 篤田・阿部・児玉・渡邊 )	胃ろう経管栄養手順・評価試験			



2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	国家試験対策	担当教員  (実務経験)	山谷 博美  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	30回	時間数	60時間
授業目的	介護福祉士国家試験合格に向けて、模擬問題、過去問題を活用した問題演習を通して、必要な知識を習得する。				
到達目標	自己分析しながら計画的に国家試験に向けた学習に取り組み、国家試験合格基準を満たすことができる。				
テキスト・ 参考図書等	『介護福祉士国家試験模擬問題集2023』 介護福祉士国家試験受験対策研究会 中央法規出版 『介護福祉士国家試験問題解説2022』 医療情報科学研究所 メディックメディア				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40%	模擬試験結果、科目別基礎知識の習熟度など総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	60%			
履修上の 留意事項	・わからないことは、その時に理解できるように積極的に授業に取り組んでください。 ・国家試験合格に向けては、授業だけではなく自己学習にて予習・復習を行い、確実な知識を身に付けてください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	科目別基礎知識の習得(高泉)	人間関係とコミュニケーション・人間の尊厳と自立		
	2	科目別基礎知識の習得(吉岡)	社会の理解(社会保障制度)		
	3	科目別基礎知識の習得(吉岡)	社会の理解(介護保険制度、介護実践に関連する諸制度等)		
	4	科目別基礎知識の習得(高橋綾)	介護の基本①		
	5	科目別基礎知識の習得(阿部)	介護の基本②		
	6	科目別基礎知識の習得(山谷)	コミュニケーション技術		
	7	科目別基礎知識の習得(山谷)	生活支援技術(家政学)		
	8	科目別基礎知識の習得(山谷)	生活支援技術(身体介護)		
	9	科目別基礎知識の習得(高橋綾)	介護過程		
	10	科目別基礎知識の習得(阿部)	発達と老化の理解		
	11	科目別基礎知識の習得(高橋綾)	認知症の理解		
	12	科目別基礎知識の習得(高橋(銀))	障害の理解(基礎・概念)		
	13	科目別基礎知識の習得(泉)	障害の理解(疾患)		
	14	科目別基礎知識の習得(喜田)	こころからだのしくみ		
15	科目別基礎知識の習得(阿部)	医療的ケア			

履修主題・履修内容	16	科目別基礎知識の習得(山谷)	総合問題
	17	模擬試験(山谷)	模擬試験Ⅰ①
	18	模擬試験(山谷)	模擬試験Ⅰ②
	19	模擬試験(山谷)	模擬試験Ⅰ③
	20	模擬試験(山谷)	模擬試験Ⅱ①
	21	模擬試験(山谷)	模擬試験Ⅱ②
	22	模擬試験(山谷)	模擬試験Ⅱ③
	23	模擬試験(山谷)	模擬試験Ⅲ①
	24	模擬試験(山谷)	模擬試験Ⅲ②
	25	模擬試験(山谷)	模擬試験Ⅲ③
	26	模擬試験(山谷)	模擬試験Ⅳ①
	27	模擬試験(山谷)	模擬試験Ⅳ②
	28	模擬試験(山谷)	模擬試験Ⅳ③
	29	模擬試験振り返り①(山谷)	まとめ①
30	模擬試験振り返り②(山谷)	まとめ②	

授業科目 (科目ID)	国家試験対策	担当教員  (実務経験)	阿部 幸恵  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員  (実務経験)	泉 共基  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務
授業形態	講義	担当教員  (実務経験)	喜田 俊恵  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務
		担当教員  (実務経験)	高橋 銀司  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として訪問介護事業所に勤務
		担当教員  (実務経験)	高泉 一生  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士として病院に勤務
		担当教員  (実務経験)	高橋 綾  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士としてケアハウスに勤務
		担当教員  (実務経験)	吉岡 秀典  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 社会福祉士としてに病院に勤務
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	キャリアデザインⅡ		担当教員  (実務経験)	山谷 博美  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8回	時間数 15時間
授業目的	高い倫理観と思いやりのある幅広い人間性を兼ね備えた専門職になるために、福祉分野の理解を深める。				
到達目標	幅広い福祉に関する活動への参加や体験を通して、多様化する社会に応じた介護福祉職に必要な知識と人間性を身につける。				
テキスト・ 参考図書等	必要時資料を配布します。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	提出課題、就職活動の参加態度、履歴書の取り組み、交流会での協力姿勢など、総合的に勘案し評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	40%			
その他	60%				
履修上の 留意事項	一つひとつ大切な履修になります。体調管理をし休まないようにしましょう。日程調整をしながら進行するため履修順番は変わることもあります。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	目標設定	個人目標設定とクラス目標の検討・決定		
	2	就職活動について	就職活動の流れについて、履歴書記載について		
	3	学科交流会①	企画・運営		
	4	学科交流会②	一年生を迎える会		
	5	施設・地域理解	施設の働き、介護福祉士の役割について		
	6	介護福祉士国家試験報告日	介護福祉士国家試験報告、就職に向けての心得		
	7	目標の振り返り	1年間を振り返り今後の抱負を考えることができる		
	8	学科交流会③	卒業生を送る会		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					